

**平成28年度大学教育再生戦略推進費
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
申請書**

【様式1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	名古屋市立大学		
テーマ	②慢性の痛みに関する 領域	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

<p>〈テーマに関する課題〉</p>	<p>慢性疼痛の生物学的メカニズムが徐々に明らかになりつつある。通常の薬物療法など身体的治療の有用性に限界があることや安易なオピオイドの使用など薬物の不適切使用の問題なども示されてきている。慢性疼痛に対する有効な治療法として高いエビデンスレベルで示されているものは認知行動療法をはじめとする精神心理的介入およびこれを含んだ多職種アプローチであることから、慢性疼痛を有する患者をマネジメントする医療者にはこれら幅広い領域の知識および専門的技術の修得が望まれる。</p> <p>慢性の痛み対策については、平成22年に厚労省から「今後の慢性の痛み対策について」と題する提言があり、その中にも精神心理的アプローチの重要性が強調されている。しかしこの点に留意した慢性疼痛の統合的治療に関してのカリキュラムは存在せず、またこのような視点から治療を実践できる医療人はきわめて少ないのが現状である。加えて、難治性の慢性疼痛に苦悩する患者を支える医療者としては、症状を軽減するのみならず、病と共存することの援助者としての高度医療人も必須である。</p>
<p>〈事業の概要〉(400字以内厳守)</p>	<p>慢性疼痛を深く理解し、苦悩する患者を援助することのできる多職種の医療人を養成するために、本事業では、以下の6つの人材養成プログラム・コースを構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療施設での早期学習コース(医学部、薬学部、看護学部1年生によるグループ学習) 2. 慢性疼痛の生物学的メカニズムを理解する基礎医学コース(医2、3年生) 3. 精神心理的要因を含めた学際的理解をするベーシックコース(医、薬4年生、看2年生) 4. 多職種による統合的治療の基礎を習得するアドバンスコース(医、薬5年生) 5. 多職種医療スタッフ養成コース(医師、心理士、看護師、薬剤師、理学療法士) 6. 精神心理的な介入を提供できるエキスパート養成コース(医師、心理士、専門看護師)

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

名古屋市立大学医学部では、ディプロマポリシーとして達成すべき7項目を掲げている。そのなかでも「患者さんとのコミュニケーションをとることができ、患者さんの立場に立った説明を行うことができること」、「医師、メディカルスタッフとの良好な協力のもとに医療を行う準備ができていくこと」は本プログラムと深い関係にある。

また本学のアウトカム基盤型のカリキュラムポリシーは1. 科学としての医学、2. 医療の安全と技能、3. 社会と医学、4. 医師としての姿勢と素養、の4領域を習得することを目標としているが、本プログラムは上記4領域すべてに関連しており、**本学の教育理念によく合致**した内容である。

また、本学では、未来をグランドデザインする「名市大未来プラン」を策定しており、大学院医学研究科では「人の優しさと未来を育む医学部・医学研究科」という目標のもと、「多職種が協働して実践する未来型医療の視点を持つ人材を育成する」ことを主要な未来像としており、**医学研究科の掲げる理念とも合致**している。加えて名古屋市立大学薬学部のカリキュラムポリシーの「チーム医療に貢献できる薬剤師を養成するため、医学部、看護学部、付属病院と連携した教育を実施する」、および看護学部の同ポリシー「広い視野で多角的に思考できる能力と豊かな人間性を育む」にも合致している。また、薬学部における、本学が準備する「3割程度カリキュラム」に関しては、1年生の医療系学部連携チームによる早期学習コースのグループ学習の研究発表および5年生のアドバンスコースが独自のカリキュラムにあたる。

③新規性・独創性

●多職種による精神心理的要因を考慮した統合的疼痛管理手法の体系化

痛みの神経科学的なメカニズムなど生物学的な機序は徐々に解明されているなかで、慢性疼痛に対する治療法としては薬物療法などの身体的治療の効果は限定的である。より効果のあるものは、医師、看護師に加え、心理士や理学療法士などによる多職種アプローチおよび認知行動療法をはじめとする精神心理的な治療であることが明らかにされている。

今回の人材養成プログラムにおいては、**慢性疼痛の科学的な理解のみならず、多職種によるチームアプローチ及び精神心理的な視点など実践的な治療に結びつく幅広い知識、技能の修得**を可能としている点に最大の特徴がある。

また、今回の事業の独創的な点は、付属病院内に「統合的痛み治療センター」を開設し、**症状軽減を目指す精神心理的アプローチ**（認知行動療法）に加え、難治症例に対して**病との共存を目指す新たな精神心理的アプローチ**（マインドフルネス認知療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピー）を実践できる専門的医療人を養成することを意図した点が独創的である。

医学部、薬学部、看護学部、人文社会学部（心理学科）を擁する総合大学であり、また麻酔科、リハビリ分野に多くの慢性疼痛の専門家を、そして精神医学分野に多彩な心理療法の専門家を、さらにはがん患者に対する全国屈指の多職種緩和ケアチームを有する**名古屋市立大学**でしか**達成できない事業**である。

④達成目標・評価指標

●医学部・薬学部・看護学部学生および病院に勤務する医師、看護師、薬剤師等の医療スタッフが、急性の痛みのみならず慢性疼痛の発現メカニズム、慢性化に関与する精神心理的背景、そのマネジメントおよびケアの原則、そして**多職種スタッフによるチーム医療の重要性**などを学ぶことができる。

●**慢性疼痛に対する専門的な精神心理的アプローチを提供できる精神科医、臨床心理士、看護師を養成**することができる。

本事業に際して、医学部学生約400名、薬学部生約200名、看護学部生約300名、病院に勤務する医師40名、看護師40名、薬剤師40名、他メディカルスタッフ20名の医療スタッフが慢性疼痛の教育プログラムを受講することを目標とする。また専門的な精神心理的アプローチを提供できる精神科医4名、臨床心理士4名を養成することを目標とする。

●慢性疼痛に対する**教材（カリキュラム、シラバス）**を作成する。

●全国への普及の一助として、慢性疼痛に対する**精神心理的アプローチの治療マニュアルおよび指導マニュアル**を作成する。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

※本事業において、新たな取組や計画がない場合は、記入不要です。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

名古屋市立大学学長を事業統括者とし、本事業の主要メンバーおよび運営に際して重要な事務事項を扱うメンバーから構成される運営委員会を設置する。具体的には、本事業のカリキュラムやコースに直接関与する教員に加え、名古屋市立大学事務局、名古屋市立大学医学部事務室、名古屋市立大学病院事務課の関係職員も参加する。運営委員会は医学部、薬学部、看護学部におけるカリキュラムや病院スタッフに対する教育プログラムの企画などに関して緊密な連携を行い、定期委員会を開催する。また教育用資料として作成する慢性疼痛に対する精神心理的アプローチに関する治療マニュアルおよび指導マニュアルに関しては、上記運営委員会以外の国内外の専門家から広くアドバイスを求めながら作成をすすめる。

なお、名古屋市立大学では「文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業」を実施しており、本事業とも協力する。

②事業の評価体制

プログラム参加者による評価をカリキュラム、教育プログラムでは実施するほか、毎年度実施計画書および実施報告書を作成し、別途設置する内部評価委員会により事業評価を行う。また、多職種の専門家により構成される外部評価委員会を設け、事業内容や実施可能性などについて年1回評価を受ける。事業の予定通りの実施が困難な場合等は、事業実施者は運営委員会にて協議し事業の見直しを行うこととする。

③事業の連携体制 (連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等)

オピオイドの適切な使用法をはじめとした慢性疼痛治療における最適な薬物療法を実践している大学および、さまざまな疾患に対して認知行動療法やマインドフルネス認知療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピーを実践している大学と連携する。またがん専門施設として多職種による緩和ケアチーム活動をけん引しているがん専門病院と連携する。

運営委員会では定期的にTV会議システム等による運営会議を開催するとともに、連絡会議を随時行う。また、連携機関からは専任講師を招いて、慢性疼痛に対するこれら精神心理的アプローチのエビデンス、背景理論、治療のメカニズムなどの教育プログラムを提供していただくとともに、専門的医療人の養成に際して治療のスーパービジョンに従事していただく。

(2) 事業の継続・普及に関する構想等

①事業の継続に関する構想

- 医学部・薬学部・看護学部において今回編成されたのカリキュラムの内容を継続する。
- 附属病院内の「統合的痛み治療センター」も存続させ、多職種によるチーム医療の実践の場として継続的に活用する。
- 雇用した心理士も継続して病院内で医療心理士として活動予定とする。

②事業の普及に関する計画

慢性疼痛に対する**多職種チームアプローチの重要性**を理解し、**精神心理的な側面の理解を促進する教材**を作成する。また精神心理的アプローチに関しては、**治療技法および指導方法をマニュアル化**する。これらを通して、慢性疼痛を有する患者の全人的な理解をすすめる、治療技法の全国への均てん化を図る。加えて、名古屋市立大学に本事業に関するホームページを設け、**ホームページ上でこれらを公開**することにより全国の大学や病院への普及を推進したい。さらに希望があれば各コースの講義をインターネット会議システムを用いて他大学へネット中継することも検討する。加えて、公立大学協会を通じて他の公立大学への普及を働きかける予定である。その他にも、学会やメディア活動を通して本事業および作成された教材、精神心理的アプローチの治療・指導マニュアルの広報を行いたい。

3. 事業実施計画

(1) 事業実施計画

28年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 7月 医学部カリキュラム編成ワーキンググループ (WG) の結成およびスタートアップミーティング開催 大学病院統合的痛み治療センター設立に向けてのWGの結成およびスタートアップミーティング開催 ② 8月 「慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成」運営委員会設立 ③ 8月～3月 教育プログラム作成 ④ 12月 慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コースおよび慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース (インテンシブコース) 履修希望者募集・選定 ⑤ 2月 次年度授業スケジュール確定 ⑥ 3月 痛みを理解するための医療系学部連携チームによる参加型学習コース、疼痛科学・行動科学基礎医学コース、疼痛科学・行動科学ベーシックコースおよび疼痛科学・行動科学アドバンスコース履修説明 ⑦ 3月 平成28年度実施報告書および平成29年度実施計画書作成 ⑧ 3月 内部評価委員会および外部評価委員会による事業評価
29年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 全6コース第1期開講 ② 4月～3月 運営委員会による事業の見直し (年複数回) ③ 9月 運営委員会による中間報告 ④ 12月 慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コースおよび慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース (インテンシブコース) 第2期履修希望者募集・選定 ⑤ 2月 次年度授業スケジュール確定 ⑥ 3月 痛みを理解するための医療系学部連携チームによる参加型学習コース、疼痛科学・行動科学基礎医学コース、疼痛科学・行動科学ベーシックコースおよび疼痛科学・行動科学アドバンスコース第2期履修説明 ⑦ 3月 平成29年度実施報告書および平成30年度実施計画書作成 ⑧ 3月 内部評価委員会および外部評価委員会による事業評価

30年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 全6コース第2期開講 ② 4月～3月 運営委員会による事業の見直し（年複数回） ③ 9月 運営委員会による中間報告 ④ 12月 慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コースおよび慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース（インテンシブコース）第3期履修希望者募集・選定 ⑤ 2月 次年度授業スケジュール確定 ⑥ 3月 痛みを理解するための医療系学部連携チームによる参加型学習コース、疼痛科学・行動科学基礎医学コース、疼痛科学・行動科学ベーシックコースおよび疼痛科学・行動科学アドバンスコース第3期履修説明 ⑦ 3月 平成30年度実施報告書および平成31年度実施計画書作成 ⑧ 3月 内部評価委員会および外部評価委員会による事業評価
31年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 全6コース第3期開講 ② 4月～3月 運営委員会による事業の見直し（年複数回） ③ 9月 運営委員会による中間報告 ④ 12月 慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コースおよび慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース（インテンシブコース）第4期履修希望者募集・選定 ⑤ 2月 次年度授業スケジュール確定 ⑥ 3月 痛みを理解するための医療系学部連携チームによる参加型学習コース、疼痛科学・行動科学基礎医学コース、疼痛科学・行動科学ベーシックコースおよび疼痛科学・行動科学アドバンスコース第4期履修説明 ⑦ 3月 平成31年度実施報告書および平成32年度実施計画書作成 ⑧ 3月 内部評価委員会および外部評価委員会による事業評価
32年度	<ul style="list-style-type: none"> ① 4月 全6コース第4期開講 ② 4月～3月 運営委員会による事業の見直し（年複数回） ③ 9月 運営委員会による中間報告 ④ 12月 慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コースおよび慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース（インテンシブコース）第5期履修希望者募集・選定 ⑤ 2月 次年度授業スケジュール確定 ⑥ 3月 痛みを理解するための医療系学部連携チームによる参加型学習コース、疼痛科学・行動科学基礎医学コース、疼痛科学・行動科学ベーシックコースおよび疼痛科学・行動科学アドバンスコース第5期履修説明 ⑦ 3月 平成32年度実施報告書および最終報告書作成 ⑧ 3月 内部評価委員会および外部評価委員会による事業評価
33年度 [財政支援 終了後]	<p>各年度に開催された内部・外部評価委員会の評価を踏まえ、各コースの研修内容を見直したうえで、財政支援終了後も事業は継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 4月 全6コース第5期開講 ② 4月～3月 運営委員会（年複数回） ③ 12月 慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コースおよび慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース（インテンシブコース）次年度履修希望者募集・選定 ⑤ 2月 次年度授業スケジュール確定 ⑥ 3月 痛みを理解するための医療系学部連携チームによる参加型学習コース、疼痛科学・行動科学基礎医学コース、疼痛科学・行動科学ベーシックコースおよび疼痛科学・行動科学アドバンスコース次年度履修説明 ⑦ 3月 当該年度実施報告書作成 ⑧ 3月 内部評価委員会および外部評価委員会による事業評価

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学						
教育プログラム・コース名	痛みを理解するための医療系学部連携チームによる早期学習コース						
対象者	名古屋市立大学医学部1年生、薬学部1年生、看護学部1年生の希望者						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	医療における痛みの重要性を理解し、地域においても痛み（特に慢性疼痛）が社会的な問題となっていることを認識し、将来医療チームの一員として活躍することの重要性を理解した学生。なお、本コースに関しては、まずは下記に記した「名古屋市立大学医療系学部連携チームによる地域参加型学習」の枠組みの一部を利用するため一部学生から開始するが、徐々に拡大していく予定である。						
修了要件・履修方法	①講義への参加 ②地域医療施設における参加型グループ学習への参加 ③グループ研究のポスター発表の評価						
履修科目等	<必修科目> ①疼痛科学講義（1コマ）医療における痛みの重要性 ②地域医療施設における参加型グループ学習と研究（4時間） ③研究ポスター発表（1時間） <選択科目> なし						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	大学入学後早期に医療における痛みの重要性を理解させることができる教育内容であること。また、学部を超えた交流を通じて、将来痛みにかかわる医療従事者としてチーム・相互理解の重要性を認識できる教育内容となっていること。なお、現在「名古屋市立大学医療系学部連携チームによる地域参加型学習」（平成21年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業採択）が行われており、このシステムに連動することにより、本プログラムの開始は円滑に行うことができる点も特徴である。						
指導体制	名古屋市立大学医学部教員、薬学部教員、看護学部教員						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	すべてのコース受講者が、医療における痛みは社会的・心理的面を含めた多面的な問題点があることを理解し、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供できる医師、薬剤師、看護師となる。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	計
	医学部学生	0	10	20	20	20	70
	薬学部学生	0	10	20	20	20	70
	看護学部学生	0	10	20	20	20	70
							0
	計	0	30	60	60	60	210

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学						
教育プログラム・コース名	疼痛科学・行動科学基礎医学コース						
対象者	名古屋市立大学医学部2年生、3年生						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	疼痛に関連した解剖学、生化学、生理学、薬理学などの基礎医学的知識を有し、疼痛の臨床医学を修得するための土台を獲得した医学部学生						
修了要件・履修方法	①講義への7割以上の出席と客観試験への合格						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>①疼痛科学講義（6コマ）：痛みにかかわる神経解剖学、痛みにかかわる神経伝達物質、痛みにかかわる受容体、痛みの電気生理学、痛みと生理学的反応、痛みの治療に使用する薬物の作用機序薬 ②実習（4コマ）：痛みの解剖学、痛みの生化学、痛みの生理学、痛みの薬理学</p> <p><選択科目></p> <p>なし</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	疼痛に関する基礎医学的知識を断片的ではなく、横断的に理解し、習得できる教育内容となっていること。						
指導体制	名古屋市立大学医学部解剖学、生化学、生理学、薬理学の教員、薬学部教員						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースの修了者は、基礎医学的な知識を十分に習得した医学部学生となり、将来的に質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供できる医師や慢性疼痛治療を専門とするリハビリテーション医、精神科医、ペインクリニックとなる。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	計
	医学部学生	0	97	97	97	97	388
							0
							0
							0
	計	0	97	97	97	97	388

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学
教育プログラム・コース名	疼痛科学・行動科学臨床ベーシックコース
対象者	名古屋市立大学医学部4年生、薬学部4学生、看護学部2年生
修業年限（期間）	1年
養成すべき人材像	疼痛の科学的メカニズムや治療に関する最新のエビデンスとその限界を知り、また疼痛のもたらす情動的・心理的問題点を理解し、統合的心理療法を含めた全人的医療の重要性を認識し、医療現場で慢性疼痛患者に対し学際的治療とケアをチームの中で実践できる医療人
修了要件・履修方法	医学部：①講義への7割以上の出席と客観試験への合格 ②グループディスカッションによる問題解決型学習への参加と観察評価とグループ面接評価への合格 ③選択科目講義コマ 薬学部ならびに看護学部：①eラーニングによるすべての講義の聴講 ②客観試験への合格
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>医学部：①疼痛科学講義（5コマ）痛みのメカニズム、痛みの薬物療法、慢性疼痛の侵襲的治療法、慢性疼痛とリハビリテーション、がんサバイバーと慢性痛 ②行動科学講義（5コマ）：医療人に求められる心理学、痛みの心理社会的要因、認知行動療法、マインドフルネス認知療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピー ③グループワーク（1時間x3回）と総合ディスカッション（1時間x3回）</p> <p>薬学部：①疼痛科学講義（5コマ）痛みのメカニズム、痛みの薬物療法、慢性疼痛の侵襲的治療法、慢性疼痛とリハビリテーション、がんサバイバーと慢性痛 ②行動科学講義（5コマ）：医療人に求められる心理学、痛みの心理社会的要因、認知行動療法、マインドフルネス認知療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピー</p> <p>看護学部：①疼痛科学講義（4コマ）痛みのメカニズム、痛みの薬物療法、慢性疼痛の侵襲的治療法、慢性疼痛とリハビリテーション ②行動科学講義（2コマ）：医療人に求められる心理学、痛みの心理社会的要因</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	痛みを科学的に理解するための基本的内容に加え、痛みが慢性化する機序を行動科学的視点および精神心理学的視点から捉え、慢性痛に対する総合的治療を理解させ、社会的・心理的要素を中心とした実践的な教育内容となっていること。
指導体制	名古屋市立大学病院の統合的痛み治療センター（設立準備中）スタッフ（麻酔科学教員、リハビリテーション医学教員、精神医学教員、緩和ケアセンター教員、臨床薬理学教員、臨床心理士、緩和ケア認定看護師、がん専門看護師等）、薬学部教員、看護学部教員、人文社会学部心理教育学科教員
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	すべてのコース受講者が社会的・心理的面を含めた総合的疼痛管理の重要性を理解し、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供できる医療従事者となる。一部の医師は疼痛管理の重要を理解した質の高いリハビリテーション医、精神科医やペインクリニックとなり、慢性疼痛治療のスペシャリストになることが期待できる。また、コース受講者は慢性疼痛に対する心理療法を専門とする臨床心理士の養成に関与することも期待される。

受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	計
	医学部学生	0	97	97	97	97	388
	薬学部学生	0	50	50	50	50	200
	看護学部学生	0	82	82	82	82	328
							0
	計	0	229	229	229	229	916

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学						
教育プログラム・コース名	疼痛科学・行動科学臨床アドバンスコース						
対象者	名古屋市立大学医学部5年生（一部他大学医学部学生の受け入れを目指す） 薬学部5年生						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	疼痛の科学的メカニズムや治療に関する最新のエビデンスとその限界を知り、また疼痛のもたらす情動的・心理的問題点を理解し、統合的心理療法を含めた全人的医療の重要性を認識し、医療現場で慢性疼痛患者に対し学際的治療とケアを実践できる医療人。なお、平成29年度はベーシックコース等を経っていない学生を対象とするためトライアル期間と位置付ける。						
修了要件・履修方法	①実習への7割以上の出席 ②観察評価、グループ面接評価、Objective Structured Clinical Examination (OSCE) への合格 ③選択科目講義1単位						
履修科目等	<p><必修科目> 名古屋市立大学病院の統合的痛み治療センター（設立準備中）における慢性疼痛管理実習（8時間）、術後疼痛管理チームへの参加（3時間）、慢性疼痛に対する侵襲的治療実習（2時間）、認知行動療法への参加（2時間）、多職種緩和ケアチームへの参加（2時間）、慢性疼痛における精神心理的要因グループワーク（1時間）</p> <p><選択科目> 疼痛科学アドバンス講義：麻酔科大学院講義（1コマ）、精神科大学院講義（1～2コマ）、リハビリテーション科大学院講義（1コマ）</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	慢性疼痛の基本的診療を実践的に学び、かつ慢性疼痛に対する行動科学および精神心理学的アプローチを実践的に学ぶことにより、総合的治療の基礎を身につけることができる実践的な教育内容となっていること。						
指導体制	病院の統合的痛み治療センター（設立準備中）スタッフ（麻酔科学教員、リハビリテーション医学教員、精神医学教員、緩和ケアセンター教員、臨床薬理学教員、臨床心理士、認定看護師等）、看護学部教員、薬学部教員、人文社会学部心理教育学科教員						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	すべてのコース受講者が社会的・心理的面を含めた総合的疼痛管理の重要性を理解し、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供できる医師となる。一部の医師は疼痛管理の重要を理解した質の高いリハビリテーション医、精神科医やペインクリニックとなり、慢性疼痛治療のスペシャリストになることが期待できる。また、慢性疼痛に対する心理療法を専門とする臨床心理士の養成に関与することも期待できる。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標	対象者	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	計
	医学部学生	0	97	97	97	97	388
	薬学部学生	0	5	5	5	5	20
							0
	計	0	102	102	102	102	408

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学病院						
教育プログラム・コース名	慢性疼痛管理チームに参加する多職種医療スタッフ養成コース						
対象者	名古屋市立大学病院の医師（初期研修医を含む）、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床心理士（臨床心理士については一部他施設からの受け入れを目指す）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	疼痛の科学的治療とその限界を知り、かつ疼痛のもたらす精神心理的問題点を理解し、慢性疼痛患者に対し心理療法を含めた全人的医療を医療現場でチームとして実践できる医療人						
修了要件・履修方法	定められた講義、実習の7割以上に出席し、小レポートと出席状況に基づき受講修了書を発行						
履修科目等	<必修科目> 疼痛治療医学講義（13単位）、身体疾患を有する患者への心のケア実習（1.5時間）、認知行動療法実習（1.5時間） <選択科目> 疼痛科学アドバンス講義：麻酔科大学院講義（1コマ）、精神科大学院講義（1～2コマ）、リハビリテーション科大学院講義（1コマ）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	痛みの科学的治療とその限界を理解するための教育内容に加え、慢性疼痛を行動科学的視点および精神心理的視点から捉えたアプローチ方法を習得でき、慢性疼痛管理チームに速やかに参加できる医療人を育成できる実践的な教育内容となっていること。「名市大医療・保健学びなおし」（2012年2月7日「知の市場」第4回年次大会奨励賞受賞）の仕組みを利用する予定であり、円滑な開講と対外的な広報が容易であること。						
指導体制	病院の統合的痛み治療センター（設立準備中）スタッフ（麻酔科学教員、リハビリテーション医学教員、精神医学教員、緩和ケアセンター教員、臨床薬理学教員、臨床心理士、認定看護師等）						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	すべてのコース受講者が精神心理的面を含めた総合的疼痛管理の重要性を理解し、質の高い疼痛管理を様々な診療科や医療チームのなかで提供できる医療人となる。また、疼痛管理チームに従事する医療人は、精神心理面に十分配慮できる質の高いリハビリテーション医、精神科医、ペインクリニック、看護師、薬剤師、臨床心理士等になり、質の高い慢性疼痛管理を提供できる。						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	計
	医師	0	10	10	10	10	40
	看護師	0	10	10	10	10	40
	薬剤師	0	10	10	10	10	40
	その他メディカルスタッフ	0	5	5	5	5	20
	計	0	35	35	35	35	140

教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋市立大学医学研究科、名古屋市立大学病院
教育プログラム・コース名	慢性疼痛に対する認知行動療法エキスパート養成コース（インテンシブコース）
対象者	医師、臨床心理士等（希望があれば一定の認定専門看護師も可）
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	慢性疼痛に対して、本事業で作成された心理療法マニュアルに則って実際に治療を提供でき、将来は治療法の普及に貢献できる人材を養成する。
修了要件・履修方法	<p><修了要件></p> <ul style="list-style-type: none"> ・履修科目を受講していること ・指導者のもとで、治療マニュアルに沿った精神心理的介入を10名以上の慢性疼痛患者に施行していること。認知行動療法を6名以上の患者に施行し、マインドfulness認知療法またはアクセプタンス&コミットメント・セラピーを4名以上の患者に施行していること。 ・ACT(Academy of Cognitive Therapy)のCBTセラピスト認定基準に準じて、施行した患者のうち少なくとも1例のセッションについては認知療法尺度(Cognitive Therapy Rating Scale:CTRS)による指導医の評価にて66点満点中40点以上を満たすこと ・ACTの基準にあるように、認知行動療法に関する書籍を5冊以上読むこと ・指導者が一定の能力を修得したと認定した受講生につき、最終的に運営委員会にて修了認定がなされ、修了証が発行される。 <p><履修方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義は認知行動療法の基礎理論や治療技法について説明する。出席が必須となる ・最初に指導者の施行する認知行動療法を見学、または録画、録音等により学習する。その後、履修者が主治療者として最低1例に認知行動療法を施行し、指導者が副治療者として同席して毎回の治療後に直接フィードバックを行うか、または治療の録画、録音等を用いて指導者によるスーパービジョンを行う。指導者は上述のCTRSを用いて評価するほか、適宜助言・指導をする。

履修科目等	<p>慢性疼痛の診療に従事する多職種医療スタッフ養成コースにも参加すること。また、疼痛科学・行動科学臨床ベーシックコースでのマインドフルネス認知療法およびアクセプタンス&コミットメント・セラピーの講義にも出席し概要を把握する。それに加えてon the job trainingの形で指導者のもとで治療を実践する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疼痛の基本概念（1時間） 認知行動療法総論（2時間） 慢性疼痛のケースフォーミュレーション（1時間） 痛みの感覚に対するアプローチ①：呼吸コントロール法（1時間） 痛みの感覚に対するアプローチ②：注意訓練法（1時間） 痛みの認知に対するアプローチ①：認知再構成法（1時間） 痛みの認知に対するアプローチ②：行動実験（1時間） 痛みに対する行動的アプローチ①：行動活性化療法（1時間） 痛みに対する行動的アプローチ②：段階的曝露療法（1時間） 指導者とともに臨床実践 <p>他に定期的に症例検討会を行い、事例検討を行う。 さらに、2年目はマインドフルネス認知療法またはアクセプタンス&コミットメント・セラピーのいずれかを指導者とともに施行する。</p>						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<p>慢性疼痛に対する有効性が高いエビデンスで示されている心理療法（認知行動療法、マインドフルネス認知療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピー）を医療現場で実践しながら修得することができるわが国ではじめてのトレーニングコースである。国内屈指の活動を誇るがんの緩和ケアチームやさまざまな精神疾患に対する認知行動療法、マインドフルネス認知療法、アクセプタンス&コミットメント・セラピーの実践経験を有する名古屋市立大学病院で実施する点も大きな特徴である。</p>						
指導体制	<p>病院の統合的痛み治療センターのスタッフ、および認知行動療法等に習熟した精神医学教員、臨床心理士等</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>コース修了者は総合的疼痛管理における精神心理面の重要性を理解し、慢性疼痛に対する専門的心理療法が実践できる質の高い精神科医、心理士等となる。そして、様々な診療科や医療チームにおいて、疼痛の精神心理面のエキスパートとして役割を果たす。</p>						
受入開始時期	平成29年4月						
受入目標人数	対象者	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	計
	医師	0	1	1	1	1	4
	臨床心理士	0	1	1	1	1	4
							0
							0
	計	0	2	2	2	2	8

課題解決型高度医療人材養成プログラム「慢性疼痛患者の生きる力を支える人材育成」

—多職種による精神心理的要因を考慮した統合的疼痛管理手法の体系化—

